

「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」が行われる



10月14日(土)午後1時より、白山キャンパス第一会議室で、中・高校生を対象に「感情の不思議・感情とその影響の測定」と題した催しが行われた。

始めに北村英哉社会学部教授が「人間の感情」とはどういうものなのか、今までの研究実績を披露しながら講演。続いて、心理学実験室に場所を移し、手足から測る心拍や皮膚電気抵抗の簡単な生理的測定を行い、音楽を聞いている時やパズルを解いている時、気分が良い時や悪い時など、どんなときに感情の影響が出やすいかを参加者それぞれが体験した。最後に、参加した学生一人ひとりに「未来博士号」が授与され、プログラムは終了した。

このイベントは、日本学術振興会が平成17年度から始めた「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の一環で、現在活躍している研究者と大学の最先端の研究の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常とのかかわりや、科学(学術)がもつ意味への理解を深める機会を中・高校生に提供するもの。本学では今年度初めて参加した。

なお、この他にも9月23日(土)に川越キャンパスで「デジカメ・携帯電話・携帯ゲーム機・ペットロボットを用いたコンピュータシミュレーション」(実施担当 中林靖工学部講師)、10月9日(月)に白山キャンパスで「人を支え、社会を変える:もうひとつの働き方」(実施担当 須田木綿子社会学部教授)と題したプログラムが行われた。

国際地域学部・生命科学部が開設10周年を迎えます!

1997(平成9)年に開設された国際地域学部・生命科学部が10周年を迎えます。これを記念して記念式典・記念講演会を行います。卒業生ならびに在学生のみならず、どなたでも参加できます。



記

「国際地域学部・生命科学部 開設10周年記念式典」

日時:10月28日(土)午後1時～午後4時30分

場所:板倉キャンパス 1102番教室

内容:午後1時 記念式典・記念講演

「これからの大学について」総長 塩川正十郎

午後1時30分 学部記念講演会

「国際地域学部の社会的役割と今後の方向性」

国際地域学部長 藤井敬信

「生命科学の社会的役割と今後の方向性」

生命科学部長 清水範夫

「地域づくり 板倉から世界へ」国際地域学部

東洋大学名誉教授 赤塚雄三先生

「極限環境微生物研究の新展開」生命科学部

東洋大学名誉教授 堀越弘毅先生

午後2時20分 卒業生の言葉

「大学で学んだことがどう生かされているか」

午後3時 参加者全員による懇親会(食堂棟第1食堂)

研究成果展示や大学所蔵貴重図書の展示もあります。

お問い合わせ先 板倉事務部総務課 TEL 0276-82-9111

「キャリア形成を考えるための特別講演会」を実施

さまざまな分野のトップで活躍する方々の貴重な体験談の中から、学生自身がキャリア形成を考えるうえでのヒントを感じ取ってもらうプログラム「キャリア形成を考えるための特別講演会」。6月は作家の浅田次郎氏が来学した。

第2回:6月23日(金)

作家 浅田 次郎氏

『日本と中国の近代』



「人が二人」と書いて、社会のありようを表す『仁』。我が生け贄である羊を支え、天に誓う姿を表す『義』。漢字を解する日本人は、この2つの心を忘れてはならない」

日本人にとって隣国なのに遠く感じる中国と、遠い国なのに近く感じるアメリカ。この2つの国を知ることは日本を知ることであり、将来へ役立つと提言する浅田氏は、自身も年に1度は双方の国へ訪れるという。「日本の近代」はアメリカの表層的な生活文化と中国の精神文化の影響によって確立された。しかし明治維新以降、植民地化への恐怖感に苛まれながらひたすら西洋化にひた走らる中で、中国に由来する仏教や儒教の教えを取り入れ、300年もの長きにわたって受け継いできた「道徳観」を否定するに至った。その結果、西洋のマネをしようとしながらも、ただひとつ不可能だった天皇制の問題を西洋のキリスト教普遍主義にプレスすることで都合よく解釈、戦争を引き起こしたと分析。インターナショナルを志向するも急ぎすぎたのが原因と指摘した。

モラルの崩壊が国としての様々な綻びにつながっていると憂い、「日本人の根幹である儒教的モラルを取り戻すべき。特に、相手を考え周囲の人と協和しあう『仁』、人として踏むべき正しい道を求める『義』の心を忘れずにいてほしい」と訴えた。

豊かな知識、ユーモアと機知に富み『鉄道員(ぼっばや)』『壬生義士伝』『蒼穹の昴』など数々のベストセラーを生んだ浅田氏は、今でも一日一冊の読書を自らに課す。「君たちも大学生なら一日一冊本を読めるはずだ」と断言した。「自分を磨くのはもちろん、文明を支えていくためには絶対に」読み書きを怠ってはいけない。楽をしてはいけない」とエールを送った。聴講者は624名。

[次回予告]

第4回

脚本家 内館 牧子氏

『『暁咲き』という人生 毛利元就の生き方』

10月24日(火)14:40～16:10

会場:白山キャンパス 井上円了ホール

(朝霞、板倉へはテレビ会議システムで配信します)

第3回以降は学報205号で報告します。



新司法試験に4人が合格

2004年に全国で一斉に開校した法科大学院の修了者が臨んだ初の新司法試験(短答式および論文式の筆記試験)が5月19日から23日にかけて行われ、本学法科大学院を修了した24名が挑戦した。9月21日に合格発表が行われ、4名が合格した。

法科大学院には「法学既習者」向けの2年コースと、「法学未修者」向けの3年コースがあり、今年の試験には全国の2年コース修了者2,091名(途中欠席4名を含む)が受験し、1,009名が合格となった。

合格者 森山弘茂さん 石坂 浩さん 松下博紀さん 元木崇司さん



兵庫県大会決勝戦での9回裏逆転サヨナラのシーン(対神港学園戦)

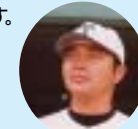
第88回全国高校野球選手権大会に附属姫路高校がベスト8進出!!!

8月6日(日)から8月21日(月)までの16日間、阪神甲子園球場(兵庫県西宮市)に北海道から沖縄まで全国49地区の代表校が集い、第88回全国高等学校野球選手権大会が開催され、東洋大学附属姫路高校が兵庫県代表として5年ぶり11回目の出場を果たした。

抽選の結果、2回戦からの登場となった姫路高校は8月11日、大会第6日目第3試合の初戦に山梨県代表の甲府工業高校と対戦。序盤から両チームのエースが変化球を武器に相手チームの打者を翻弄し投手戦。明暗をわけたのは5回裏の甲府工業高校の守備。捕手のエラーで追加点を上げ、後半の追撃をしのいだ姫路高校がリードを守り、逃げ切った。兵庫県勢の初戦突破は5年ぶり。続く3回戦は大会第10日目の第2試合、群馬県代表の桐生第一高校との対戦、姫路高校は1回裏ホームランで先制、続く2回エラー等で同点とされたが、2、3回に追加点を上げ、嫌なムードを断ち切り一気に姫路高校ペースへ。5対2で勝利し、20年ぶりのベスト8進出!!

第12日目の準々決勝第1試合、対戦相手は夏の大会で73年ぶりの3連覇を狙う強豪、北海道代表の駒澤大学附属苫小牧高校。初回の2ランホームランで流れにのる姫路高校は4回にも追加点、4対0で姫路高校ペースの試合展開。しかし6回裏に連打され4対4の同点、流れは一気に相手チームへ。同点で迎えた7回裏、2死3塁から決勝点となる内野安打で逆転を許し4対5に。1点を追う姫路高校は最終回の9回表、2死3塁と同点のチャンスを迎えたが最後の打者が内野ゴロに倒れゲームセット。「北の王者」駒大苫小牧を一時は慌てさせ、勝利への期待を思わせた試合運び。結果的にベスト8で姿を消したが、兵庫県代表としてまた地元代表としては「夏の東洋」色濃く印象付けた第88回大会だった。

皆様の熱いご声援を追い風に、甲子園でベスト8に入れたことを本当に嬉しく思います。これからも、より一層応援していただけるよう日々頑張っておりますので、よろしくお願致します。



東洋大学附属姫路高等学校 野球部監督 堀口 雅司



甲府工業高校戦で好投する乾投手



開会式での入場行進



桐生第一高校戦。1回裏、林崎選手のホームラン

第18回出雲全日本大学選抜駅伝競走で3位入賞、初のシード権獲得!

第18回出雲全日本大学選抜駅伝競走が10月9日(月)鳥根県出雲市の出雲大社正面鳥居前～出雲ドーム前までの6区間44キロで各地域の代表21校が出場し行われた。午後1時5分にスタートし、本学は2時間10分06秒の3位でゴール。総合成績で3位は本学最高の順位、初のシード権獲得、来年の出場権を手に入れた。来月開催される全日本駅伝、来春の箱根駅伝への更なる期待が高まる。



トップ東海大を追う大西選手

INDEX

ニュース&インフォメーション

P18

第88回全国高校野球選手権大会に附属姫路高校がベスト8進出!!!

第18回出雲全日本大学選抜駅伝競走で3位入賞、初のシード権獲得!

P19

「キャリア形成を考えるための特別講演会」を実施

新司法試験に4人が合格

「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」が行われる

国際地域学部・生命科学部が開設10周年を迎えます!

P20

平成18年度東洋大学名誉教授称号授与式

平成18年度東洋大学奨学生認定式が行われる

悪質商法被害防止講演会が行われる

白山キャンパス6号館が「東京都環境賞知事賞」を受賞

大手町サテライトに「公民連携ヘルプデスク」を開設

P21

「人間環境デザイン学科開設記念連続シンポジウム」を開催

埼玉県内企業対象のセミナーを埼玉りそな銀行と実施

文化公演会「阿波踊りの源流、変遷とその魅力」を開催

朝霞キャンパスにオブジェが寄贈

巨大絵馬5枚を湯島天満宮に奉納

P22

「イノベーション・ジャパン2006-大学見本市」に6テーマを出展

平成19年4月、学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻(博士後期課程)を開設

平成18年9月卒業式・10月入学式を挙行

交換留学生歓迎会が行われる

P23

坂口安吾 生誕100周年記念講演会&シンポジウムのお知らせ

第20回「現代学生百人一首」募集中!

平成18年度東洋大学ホームカミングデーのお知らせ

文化公演会「阿波踊りの源流、変遷とその魅力」を開催

7月15日(土)午後2時から、白山キャンパス井上円了ホールで文化公演会「阿波踊りの源流、変遷とその魅力」が開催され、350名が聴講した。

講師は「阿波踊りの数日間のために、一年働いている」と言う、阿波踊りを愛してやまない徳島県出身の三浦敬明文学部教授。「単に肉体的な踊りではなく、歴史的・文化的に多くの意味を持つのが阿波踊りの魅力」と述べ、現在のような踊りの形態になるまでの歴史的経緯や、観光踊りへの変質は財政難が発端にあること、また同じ踊りでも地域の特性によりテンポが異なるなど、阿波踊りの知られざるエピソードを披露した。引き続き、遠藤祥雄名誉教授が「踊る阿呆のコミュニケーション」と題し、会話よりメールでのコミュニケーションに依存しがちな現代、対人関係を平面化・バーチャル化させていることへの警鐘を発し、一方で「現在失いつつある立体的コミュニケーションが全て含まれているのが阿波踊り」とその独特な動きを分析しながら、魅力を探った。

公演の最後を飾るのは学生サークル「阿波踊り愛好会」による阿波踊りの実演。勢いのあるステージに盛大な拍手が送られた。



三浦敬明文学部教授



なお、本番のステージである「徳島阿波踊り」(8月13日、14日)には校友会・雨水会徳島支部の協力により、愛好会の学生、卒業生や父母など約80名が「東洋大学連」として参加。日頃の練習の成果を思う存分、踊り尽くした。

巨大絵馬5枚を湯島天満宮に奉納

10月2日(月)午前10時から、受験生の願いを込めた縦90cm横120cmの巨大絵馬5枚を学問の神様「菅原道真公」を祭る湯島天満宮(東京都文京区湯島)に奉納した。この絵馬は東洋大学のオープンキャンパスや、大学の講義を実体験するイベント“学びLIVE2006”、また全国主要都市での入試説明会の機会に設置して、受験生に合格祈願のメッセージを記入してもらったもの。



「落ちません!」現役合格「夢は夢で終わらせない!」... 大学合格を祈願する受験生の真剣な思いがこの絵馬を通じて届きますように!

朝霞キャンパスにオブジェが寄贈される

6月26日(月)朝霞キャンパス大学院・研究棟正面に石の彫刻作品が設置された。作者は東京都練馬区在住の高濱英俊氏。同氏の工房が朝霞市にあるご縁で本学朝霞キャンパスに寄贈されたもの。作品は黒御影石で台座を含め高さ140センチ、重量3トン。

高濱さんは「これからの時代にさらに必要とされていくものは芸術的感性。彫刻に身近に触れることで感性が磨かれ、創造性が膨らんでいくことを期待します」と朝霞キャンパスの学生へメッセージを送った。なお、この作品のタイトルは「連鎖するかたち」。



「人間環境デザイン学科開設記念連続シンポジウム」を開催

6月17日(土)午後1時から、朝霞キャンパス実験工房棟1階にてライフデザイン学部人間環境デザイン学科開設記念連続シンポジウム「人間環境デザインの可能性(1)」が開催された。

シンポジウムに先立ち、高橋儀平人間環境デザイン学科主任は「学際的な融合型の学部の特徴を活かして、新たな学問、新たな研究、新たな科学を作りたい」と挨拶し、古川孝順ライフデザイン学部長は、「第一期生の皆さんが、学部の伝統の基礎を一緒に作ってほしい」と、エールを送った。

シンポジウムでは、内田祥士教授、米田郁夫教授、天沼昭彦教授が自身の経験を交えながら、建築・福祉機器・プロダクトデザインから考えるデザイン教育について語り、新入生を含めた約100人の参加者が耳を傾けた。なお、シンポジウムは、「人間環境デザインの可能性」を統一テーマとして、複数年にわたり年4回のシンポジウムを開催する予定。多くの方々の参加を呼びかけている。

- (今年度の予定)
- 第2回 7月22日(土)【終了しました】
「まちづくりから情報デザインまで」
 - 第3回 10月21日(土)13:00~
「理系文系の枠を越えたものづくり」
 - 第4回 11月11日(土)13:00~
「人間環境デザインの可能性(2)」



埼玉県内企業対象のセミナーを埼玉りそな銀行と実施

9月13日(水)川越キャンパスにおいて、工業技術研究所と埼玉りそな銀行による産学連携セミナーを実施した。このセミナーは埼玉りそな銀行が県内企業と大学との連携を支援するもので、110社150名が参加。工業技術研究所長の坂本信義教授らが同研究所で行っている技術相談・受託研究・共同研究の事例などを紹介したほか、生産工学、バイオなど最先端の研究施設、設備の見学が行われた。企業と大学とを結びつけるマッチングは今、大きな注目を集めており、大学との連携に強い関心を示す出席者が多く見られた。



白山キャンパス6号館が「東京都環境賞」を受賞

白山キャンパス6号館が平成18年度「東京都環境賞」を受賞し、贈呈式が6月20日(火)午後3時30分から東京都庁第一本庁舎7階会場で行われた。式には菅野卓雄理事長が出席し石原慎太郎東京都知事から感謝状と記念品が贈られた。

6号館は敷地面積7,486㎡のうち、3,142㎡を緑化しており、敷地緑地率は約42%。平成17年度に緑化完了書が提出された中で最も高く、都市部におけるヒートアイランド現象緩和のために大きく貢献していると評価された。さらに、1,923㎡におよぶ屋上緑化は、平成17年度に完成したものの最大規模のもので、かつその4割以上を樹木で緑化しており、今後の屋上緑化の範たるものと認められた。

石原知事は「哲学を持った動物である“人間”が地球環境の良き循環を取り戻すため、環境に対する気持ちを強く維持していかなければなりません。皆さんの試みや努力は崇高な志として称えます」と、環境賞受賞者へ祝辞を述べた。



大手町サテライトに「公民連携ヘルプデスク」を開設

7月18日(火)より、大手町サテライトキャンパス(東京都千代田区大手町)に「公民連携ヘルプデスク」を開設した。

今回のヘルプデスクは、今年4月、わが国で初めて将来の日本の公民連携プロジェクトの企画・実践を担う官民の人材育成を目的に設立した、社会人大学院・経済学研究科公民連携専攻(修士課程)によるもの。教育・研究成果を活かして社会に貢献するために、専攻の教員が具体的な公民連携プロジェクトに関する相談に対応する。

対象者は、地方自治体、公民連携分野の民間企業、NPOなどで、どのような分野で公民連携を進めるべきか、どの手法を選ぶべきか、具体的な手順・収支計画・資金計画など幅広い相談が可能。メール(ppp@hakusrv.toyo.ac.jp)で申し込み、面談日時を設定する方式。相談は無料。詳細はホームページ <http://www.toyo.ac.jp/economy/ppptop.html>で。

平成18年度東洋大学名誉教授称号記授与式

6月30日(金)白山スカイホールにて、永年にわたり本学の教育・研究の分野において多大な貢献をされ、今年3月に退職した11名の教員に名誉教授の称号が授与された。

授与式では、松尾友矩学長がそれぞれの教員の略歴などを紹介し、称号記を授与。続いて法人を代表し古澤篤輔常務理事から挨拶があった。また、名誉教授を代表して針生清人名誉教授が、学生紛争が盛んだった時代や自身の教員生活を振り返り、名誉教授授与に感謝の言葉を述べた。

最後に、松尾学長から「東洋大学の現状」についての説明があり、懇談会へと移った。なお、名誉教授になられたのは次の11名。()は退職時の所属。

- 針生 清人(文学部哲学科)
- 岡田 朝雄(文学部日本文学文化学科)
- 大塚 賀弘(文学部英語コミュニケーション学科)
- 遠藤 祥雄(文学部英語コミュニケーション学科)
- 上野 喬(経営学部経営学科)
- 田中 学(法学部法律学科)
- 武藤 節義(法学部企業法学科)
- 中里 至正(社会学部社会心理学)
- 今川 宏(工学部応用化学科)
- 藤沼 弘(工学部応用化学科)
- 上杉 啓(工学部建築学科) 敬称略



平成18年度東洋大学奨学生認定式が行われる

7月19日(水)白山キャンパス井上円了ホールで、平成18年度東洋大学奨学生認定式が行われた。式では、今東博文学生部長から「この奨学金は、東洋大学で学んでいる学生の学費から給付されるものです。奨学生のみなさんは、それぞれの奨学金の目的を理解し、常に奨学生としての自覚をもって行動してほしい。他の学生の見本となってください」との挨拶があり、集まった386名の奨学生は、今後の学生生活に向けて気持ちを新たにしました。

続いて、奨学生を代表して第1種奨学金(学業成績優秀者奨学金)が給付される本島陽子さん(法律学科4年)に目録が渡され、本島さんは「奨学生としての誇りを持ち、積極的に学生生活を送りたい」と今後の抱負を語った。

今回の第1種奨学生では、生まれつき耳が聞こえないというハンディをかかえる高橋正子さん(文学部日本文学文化学科)も選ばれた。高橋さんは、授業でノートへの書き込みやテープ起こしを手伝ってもらっている友達やボランティアの方に対し、「今回いただいた奨学金はサポートしてくれた仲間に分けたいくらいです。残りの大学生活も充実したものにしたい」と感謝の気持ちを述べた。



悪質商法被害防止講演会が行われる

7月4日(火)午後6時10分から、白山キャンパス1B13教室で、悪質商法被害防止講演会が行われた。この講演会は振り込め詐欺・キャッチセールス、マルチ商法などが世間を賑わしている中で、学生が被害に遭わないよう啓発する目的で開催しているもの。今回は「消費者トラブルに遭わないために」と題し、文京区消費生活センターの福田優子氏が講演。マルチ商法で被害にあった20代からの相談が多数寄せられていることを説明し、具体例を挙げながら未然に防ぐ方法や、対処の仕方について説明があった。



坂口安吾 生誕100年記念講演会&シンポジウムのお知らせ

本学卒業生である坂口安吾(1930年3月印度哲学倫理学科卒)は今年、生誕100年を迎えました。文学部ではその文学的業績を顕彰し、時代を超えて現代に至るまで彼の文学が失うことなく持ち続けてきた魅力を再検証したいと思っております。安吾の文学は、東洋・西洋の哲学や文学と深く関わるとともに、独特の深みを持った世界を展開しています。生誕100年を記念して行うこの講演会ならびにシンポジウムで、その視野の広さ、豊かさを存分に味わってください。

「坂口安吾と現代」

日時:11月11日(土) 会場:白山キャンパス 井上円了ホール

記念講演 午後1時

「安吾の中のフランス」 荻野 アンナ氏(作家・慶応義塾大学文学部教授)

「安吾と悪」 山折 哲雄氏(国際日本文化研究センター名誉教授)

シンポジウム「坂口安吾と東西文化」 午後3時

「とらわれない精神」 野呂 芳信(日本近代文学/日本文学文化学助教授)

「西欧の光と影なる誘惑」 朝比奈 美知子(フランス文学/日本文学文化学助教授)

「100パーセント信じ、100パーセント疑う」宮本 久義(インド思想/インド哲学助教授)

「坂口安吾の『私』語りど『莊子』」 吉田 公平(中国哲学/中国哲学文学助教授)

申込みは不要です。直接会場にお越しください。


お問い合わせ先 文学部日本文学文化学科(共同研究室) TEL 03-3945-7367

平成18年度東洋大学ホームカミングデーのお知らせ

ホームカミングデーは、卒業生全員を対象とし卒業生と母校の絆を深め、卒業生同士の親睦を深める目的で行われる行事です。

懐かしい顔に出会う機会としてはもちろん、新しい白山キャンパスをご覧いただくよい機会です。今年度は、大学祭と同日開催ですので、先輩や後輩、ゼミ、サークルのご友人やご家族をお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。参加は無料。素敵な記念品もご用意しております。

記念講演会
小林 キコウ氏



プロフィール 平成2年3月経済学部卒
昭和43年長野県生まれ。在学中は、バック
パッキング同好会に所属し全国を歩
き回る。卒業後、地方紙新聞記者を経て、
写真家に。TOKYO OMNIBUS(リトル・
モア)で第32回準太陽賞を受賞し、デビュー。
以来、写真家として活躍。「上京(廣済堂)」、
「Tokyo Kitchen(リトル・モア)等、若者を
題材にした作品など著書多数。
最新刊「ハチミツシビ、ミルチを育てながら」
(主婦と生活社)10月中旬発行。
小林キコウ氏のホームページ:
<http://www.kobayashi-kiyu.com/>

日時:平成18年11月4日(土) 受付 10:30~
キャンパスツアー 12:00~12:50(20分×2回)
記念講演会 13:00~14:00
式典・懇親会 14:30~16:30

場所:東洋大学白山キャンパス

対象者:卒業生全員

招待者:卒業後10年目、25年目、50年目以上の方

内容: 記念講演会 キャンパスツアー(平和祈念の碑ご案内)
式典・懇親会 パネル展示 パサー 他

申込方法: 氏名 住所 電話番号 卒業年
卒業した学部・学科等

を明記の上、「FAX」または「e-mail」にてお申込ください。

お問い合わせ先 東洋大学総務課
TEL 03-3945-7224 FAX 03-3945-7654
e-mail soumu@hakusrv.toyo.ac.jp

第20回「現代学生百人一首」募集中!

第20回を迎える東洋大学「現代学生百人一首」の募集が始まりました。

昨年度は全国の小学生から大学生、大学院生まであわせて5万7946首の応募がありました。このコンクールは新聞・テレビなどでも大きく取り上げられています。

「現代学生のもの見方・生活感覚」を詠み込んだ、学生ならではの短歌を皆さんも応募してみませんか。入選作品100首には1万円分のオリジナル図書カードを贈呈します。

締め切り:11月6日(月)当日消印有効
お問い合わせ先 東洋大学広報課
TEL 03-3945-7571
<http://www.toyo.ac.jp/event>



平成18年9月卒業式・10月入学式を挙行

平成18年の9月卒業式・学位記授与式が9月25日(月)白山スカイホールで行われた。この日卒業を迎えたのは大学院生13名、学部生128名、通信教育部11名の計152名。式は午前10時から大学歌斉唱で始まり、大学院の学位授与、学部・通信教育部の学生への卒業証書・学位記の授与が行われた。

松尾友矩学長は告辞の中で、創立者の井上円了博士と、共生学への取り組みに触れ、『哲学への思いをもつこと』、現代の地球社会が抱える課題への取り組みである『共生学の構築への協力』を本学卒業生のよき資質の一つとして自覚し、これからの人生の節々における生き方の選択に活かしてください』と述べた。

また菅野卓雄理事長は「井上円了先生が東洋大学の前身である哲学館を創設されたのは、当時の日本の社会の真の近代化の為には国民の智的能力を向上させることが課題であると考えたからです。脈々と生きている建学の精神を大切に活躍されることを願います」と祝辞を述べた。

最後に在校生代表の秋山佳祐さん(国際地域学科3年)が送辞を、卒業生代表の菊地康之さん(コンピュータ情報工学科)が答辞を述べ、式は終了した。

なお、今年度から各学部・研究科ごとに行われるようになった10月入学式は、9月29日(金)から10月2日(月)の間、各キャンパスにて挙行された。



交換留学生歓迎会が行われる

9月27日(水)午後1時15分から浦水会館にて2006年度交換留学生歓迎会が行われた。海外の協定校およびISEP加盟国の大学から選ばれた18名の学生が来年度7月まで本学で学ぶ。会には担当教員や留学生をサポートする学生らが集まり、互いの親睦を深めた。



「イノベーション・ジャパン2006-大学見本市」に6テーマを出展

国内大学の最先端シーズと、産業界の交流・マッチングを促進する国内最大級の場である「イノベーション・ジャパン2006-大学見本市」が、9月13日(水)から15日(金)の期間、東京国際フォーラム(東京・有楽町)で開催された。会場では全国から集まった大学から「ナノテク・材料」「バイオ・アグリ」「医療・健康」「環境・エネルギー」「IT」「ものづくり」という最先端技術分野の知的財産が約200テーマ紹介された。

本学からは以下の6テーマを出展し、ブースを訪れた参加者に丁寧に研究内容を説明した。

・ナノテクノロジー・材料分野

回転磁場によるナノ・マイクロ物体のマニピュレーション
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/代表 前川 透(工学部教授)

・環境・エネルギー分野

臨界面近傍流体への紫外レーザー照射による流体分子の分解とナノ・マイクロ構造体創成
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/代表 前川 透(工学部教授)

産業廃棄物の循環利用を促進するGISデータベースシステムの開発
地域産業共生研究センター/代表 藤田 壮(工学部教授)

・バイオ・アグリ分野

安全・安心を志向した、植物の健全育成システムの開発
植物機能研究センター/代表 下村 講一(生命科学部教授)

微小磁気ビーズによる動物細胞の選択的固定
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/清水 範夫(生命科学部教授)

ディスプレイ型抗酸化活性測定用センサ
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/大熊 廣一(生命科学部教授)

平成19年4月、学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻(博士後期課程)を開設

バイオテクノロジー、エレクトロニクスという異なる領域を融合し、学際的研究の先駆けとしてさまざまな知的財産を創出、そのユニークな取り組みが注目されてきたバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター。同センターの研究をベースにした新研究科「学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻(博士後期課程)」が、平成19年4月に誕生する。

新研究科では文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「新機能微生物科学とナノテクノロジーの融合」、ハイテク・リサーチ・センター整備事業に選定された「極限環境微生物とナノエレクトロニクスを融合するデバイスの開発研究」、「バイオ・メカ・フォトニクス融合デバイスの研究・開発」などの高い研究成果と、大学院工学研究科・生命科学研究科での蓄積をさらに融合させ、既存の学問分野の枠を超えた新しい教育研究と世界をリードする創造的人材の育成を目指す。

お問い合わせ先 川越事務部教学課(大学院担当)
TEL 049-239-1313 FAX 049-239-5117 e-mail graduate@eng.toyo.ac.jp

なお、バイオ・ナノエレクトロニクスに関する特許を中心としたシーズを広く紹介する「第1回アカデミック・ビジネスシーズ展」を10月13日(金)に開催した(詳細は次号で報告します)。

編集雑記

現在、司法試験は2種類の試験制度があり、先月、新しい司法試験の合格発表が行われた。これは2年前に新たに発足したロースクールを修了した者が受験する制度であるが、数年後には従来の制度から全て移行される。今年度の結果に全体が一憂しているようだが、次年度以降、本当の意味での真価が問われることになるだろう。他学部の卒業生が3年間で法学の基礎知識を学び、法曹界で要求される高度な専門知識を習得し、難関の試験に合格できるか、正に教育課程、指導方法、教員の熱意などが問われる。合格者数、合格率が芳しくないことと存続の危機に直面する。まさにロースクールの生き残りである。(K)

8月で29歳になった。小さい頃、29歳といったら、世の中のことなんてなんでも知っている、立派な大人だと感じていた。が、とんでもない! 実際その年にならなってみると、考えていたものとのギャップに愕然とする。あまりに何も知らないし、こんな大人でいいのかなと思うことがほとんどだ。そして、有名な人かと思えば、例えば三浦カズ、あの人は、歳の時はずでにこんなことをしていた、と考えてしまふ今日この頃。こんなことを考えても、あまり意味がないことはいわかってはいるが、人間満足したら終わりだといふし、むしろこうやって、自分の非力を実感しながら成長していくのかと思う。(T)

それは人生初の体験だったと言っている。スキを与えず、理詰めで流暢な語りかけ、聞き手にこれほどの感動を与えるなんて18日、本学を会場に行われた「アベト甲子園」(PT)での見聞はおそらく今年の1、2を争う驚愕だろう。特に決勝、会津高校の「アベト」4名による、道州制を導入すべきである、という立証はその整理された鮮やかな論理に、震えを覚えるほどだった。感動とは感性だけに、震えを覚えるほどではない、理性にもあるんだ、と発見したことが、思いがけない収穫となった。あれから私、思わず「推理ロジック」やら「数独」やらを開いてしまし、悪戦苦闘しています。(k)

初めて見たアベト甲子園には衝撃を受け、かつ感動したが、今年の夏は久しぶりに本学本元の甲子園(高校野球)に「喜」憂した。7月の地方大会で本学の卒業生が監督を務める高校が次々に勝ち上がった。1つは、甲子園から遠く離れた茨城大会の準決勝で惜しくも敗退したが、埼玉の浦和学院は同じく卒業生の監督が率いる鷲宮高校に決勝で勝利、群馬の桐生一高も甲子園出場を果たした。そして、ハンカチ王子の出現により盛り上げた、甲子園での全国大会では、附属姫路高校が準決勝で昨年の優勝校に1点差で敗れたものの、ベスト8の大活躍。来年の夏はどのような活躍が見られるのか、早くも待ち遠しい。(Y)